

日本語学習者と小学生が遊びを通じて交流 「世界を見よう in 鷺っ子まつり」が開かれました

11月30日（土）、鷺沼小学校で行われた「鷺っ子まつり」に、日本語教室で活動している日本語学習者やボランティア有志が参加して「世界をみよう in 鷺っこまつり」が開かれ、子どもたちと外国人学習者が楽しいふれあいのひとときを過ごしました。

これは、日本語教室部会のプロジェクト「世界を知ろうサポートプラン」の活動のひとつで、子どもたちが世界についてその国の人から直接学ぶと同時に、学習者も子どもを相手に、学んだ日本語で自国の文化を紹介するというもので、日頃少ない機会でもあり、今回が初めての試みです。

参加したのは学習者、ボランティア、NI-Youth、NIA 関係者、市内の有志のかた、総勢 55 人です。そのうち学習者の関係は 20 人で、出身国はブラジル、ペルー、中国、フィリピン、タイ、マレーシア、インド、ネパール、スリランカでした。

それぞれの国のコーナーに立ち寄った子どもたちは、国によって異なるジャンケンをしたり、各国の文字で書かれたサインや国旗のシールをもらったり、珍しいカレンダー、楽器、本、お金、各国の物産品などを手に取って説明を聞いていました。

またインドのカレーのスパイスや中国の伝統折り紙、切り絵も関心を集めていました。NI-Youth の世界のカルタも好評でした。さらにタイやインドの学習者が着た華やかな民族衣装、フィリピンの学習者エーロンさんのヒップホップダンス、みんなが参加したサンバダンスは一層雰囲気盛り上げました。

会場の 1 年 3 組の教室は終始人で一杯になるほど予想以上の大盛況でした。わずか 2 時間でしたが、約 200 人の子どもたちそれぞれが、楽しい時間とともに新鮮な体験ができたことでしょう。



サインや国旗シールをもらいました



ヒップホップダンスを披露するエーロンさん



みんなでサンバを踊りました